

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6595295号
(P6595295)

(45) 発行日 令和1年10月23日 (2019. 10. 23)

(24) 登録日 令和1年10月4日 (2019. 10. 4)

(51) Int. Cl.

B60N 2/64 (2006.01)

F 1

B60N 2/64

請求項の数 2 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2015-202981 (P2015-202981)
 (22) 出願日 平成27年10月14日 (2015. 10. 14)
 (65) 公開番号 特開2017-74839 (P2017-74839A)
 (43) 公開日 平成29年4月20日 (2017. 4. 20)
 審査請求日 平成30年9月6日 (2018. 9. 6)

(73) 特許権者 000133098
 株式会社タチエス
 東京都昭島市松原町3丁目3番7号
 (74) 代理人 100079108
 弁理士 稲葉 良幸
 (74) 代理人 100109346
 弁理士 大貫 敏史
 (74) 代理人 100117189
 弁理士 江口 昭彦
 (74) 代理人 100134120
 弁理士 内藤 和彦
 (72) 発明者 戸畑 秀夫
 東京都昭島市松原町3丁目3番7号 株式
 会社タチエス内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 車両用シート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両用シートであって、

着座者の腰部付近を支える下部と、肋骨付近を支える中央部と、肩甲骨付近を支える上部とを有するシートバックを有し、

前記中央部は、前面側から見て前記下部及び前記上部よりも幅広に形成され最も横幅が広い部分が頂点となる波形に形成され、左右の両端が前方側に突出するように湾曲した前面を有し、肋骨付近を囲んで支えるように構成され、

前記シートバックは、前記中央部から前記上部にかけて、背面側から見て着座者の肩部が露出するような切欠き形状を有し、

前記切欠き形状は、前面側から見て前記中央部から前記上部にかけて次第に幅が狭くなり内側に凹んだ湾曲形状であり、

前記中央部における最も横幅が広い部分は、前記シートバックとシートクッションとの境を基点にして、当該境から前記シートバックの上端までの長さの40%以上60%以下の範囲内に設けられている、車両用シート。

【請求項 2】

前記上部が、着座者の首部付近まで上方に延長されている、請求項 1 に記載の車両用シート。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、車両用シートに関する。

【背景技術】

【0002】

自動車などの車両に搭載される車両用シートは、シートクッション（座部）とシートバック（背凭れ部）を備えている。

【0003】

上述の車両用シートは、着座者のフィット感が重要視されている。そこで、シートバックの座面が、上下方向では肩甲骨に沿って上に行くにつれて膨らむ曲線形状を有するシートが提案されている（特許文献1参照）。このシートによれば、着座者の体格による差が比較的少ない肘骨、肩甲骨付近の部位を中心に支持するため、体格に関係なく良好なフィット感が得られる。

10

【0004】

【特許文献1】特開2015-98213号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上述のシートを用いた場合、シートバックの肩甲骨付近を支える部分が左右に膨らんでいるため、例えば図10に示すように着座者の肩部Sが後ろのシートバック100に覆われ支えられることがある。この場合、車両のシフトレバーを操作したり、上半身を左右へ旋回して左右や後方を確認する際に、着座者の肩部の動きが規制され、それらの動作を行いにくなる。

20

【0006】

本出願はかかる点に鑑みてなされたものであり、着座者の良好なフィット感を維持しつつも、着座者の肩部を動かしやすい車両用シートを提供することをその目的の一つとする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明者らは、鋭意検討した結果、シートバックの着座者の肋骨付近を支える中央部を、肩甲骨付近を支える上部と腰部付近を支える下部よりも幅広に形成し、中央部から上部にかけて、背面側から見て着座者の肩部が露出するような切欠き形状にすることにより、良好なフィット感を維持しつつも、肩部を動かしやすくなることを見出し、本発明を完成するに至った。

30

【0008】

すなわち、本発明は以下の態様を含む。

（1）車両用シートであって、着座者の腰部付近を支える下部と、肋骨付近を支える中央部と、肩甲骨付近を支える上部とを有するシートバックを有し、前記中央部は、前面側から見て前記下部及び前記上部よりも幅広に形成され、左右の両端が前方側に突出するように湾曲した前面を有し、前記シートバックは、前記中央部から前記上部にかけて、背面側から見て着座者の肩部が露出するような切欠き形状を有している、車両用シート。

40

（2）前記シートバックは、前面側から見て前記中央部から前記上部に向かって次第に幅が狭くなり内側に凹んだ湾曲形状を有する、（1）に記載の車両用シート。

（3）前記中央部における最も横幅が広い部分は、前記シートバックとシートクッションとの境を基点にして、当該境から前記シートバックの上端までの長さの30%以上70%以下の範囲内に設けられている、（1）又は（2）に記載の車両用シート。

（4）前記上部が、着座者の首部付近まで上方に延長されている、（1）～（3）のいずれかに記載の車両用シート。

【発明の効果】

【0009】

50

本発明によれば、着座者の良好なフィット感を維持しつつも、着座者の肩部を動かしやすい車両用シートを提供できる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】車両用シートの斜視図である。

【図2】着座者が着座したときのシートバックの側面図である。

【図3】シートバックの前面図である。

【図4】図3のC-C断面のシートバックの下部の前面形状を示す説明図である。

【図5】図3のB-B断面のシートバックの中央部の前面形状を示す説明図である。

【図6】着座者が着座したシートバックの背面図である。

【図7】図3のA-A断面のシートバックの上部の前面形状を示す説明図である。

【図8】図2のD-D断面の着座者の動きを示す説明図である。

【図9】着座者の首部まで上部を延ばした場合のシートバックの背面図である。

【図10】着座者が着座したときの従来のシートバックの側面図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

本発明について、以下具体的に説明する。なお、以下の実施の形態は、本発明を説明するための例示であり、本発明はその実施の形態のみに限定されるものではない。同一の要素には同一の符号を付し、重複する説明は省略する。また、図面中、上下左右等の位置関係は、特に断らない限り、図面に示す位置関係に基づくものとする。さらに、図面の寸法比率は、図示の比率に限定されるものではない。

【0012】

図1は、本実施の形態にかかる車両用シート1の一例を示す斜視図である。車両用シート1は、例えばシートクッション（座部）10と、シートバック（背凭れ部）11と、ヘッドレスト12を有している。

【0013】

シートバック11は、図2及び図3に示すように横幅のある上下方向に長い板形状を有し、着座者Pの腰部H付近を支えるための下部20と、肋骨I付近を支えるための中央部21と、肩甲骨J付近を支えるための上部22とを有している。なお、本明細書において、「着座者」は、成人の一般的な身長150cm～185cmを想定している。

【0014】

下部20は、図3に示すように前面側から見て相対的に細く、およそ一定の幅を有している。具体的には、下部20は、着座者Pの腰部Hの幅よりも狭い、150mm～300mmの幅を有している。下部20の前面20aは、図4に示すように幅方向に平坦であるか、中央が凹むように僅かに湾曲している。

【0015】

図3に示すように中央部21は、前面側から見て下部20及び上部22よりも相対的に広い幅を有している。中央部21は、下部20から次第に幅広になり、上部22に向けて次第に幅狭になる湾曲形状を有している。すなわち、中央部21は、前面側から見て最も幅広の部分（幅広部分21a）が外側に凸になる波型に形成されている。具体的には、中央部21の幅広部分21aの幅は、400mm～550mm程度に設定されている。

【0016】

中央部21の左右の両端は、図2及び図5に示すように前方に突出している。中央部21の前面21bは、幅方向に中央が凹み左右の両端が前方に突出するように湾曲している。これにより、着座者Pの脇腹の肋骨I付近を囲むように支えることができる。

【0017】

シートバック11は、図3及び図6に示すように中央部21から上部22にかけて、背面側から見て着座者Pの肩部Sが露出するような切欠き形状11aを有している。例えばシートバック11は、中央部21から上部22にかけて、幅が次第に狭くなり内側に大きく凹む湾曲形状を有している。

【0018】

具体的には上部22の上端22aの幅が、例えば150mm～300mm程度で、中央部21の幅広部分21aの幅の30%～75%、好ましくは40%～60%である。また、切欠き形状11aの上下方向の長さ（中央部21の幅広部分21aから上部22の上端22aまでの長さ）は、例えば200mm～300mm程度であり、中央部21の幅広部分21aから上部22の上端22aに向かって内側に凸に湾曲している。また、中央部21における幅広部分21aは、シートバック11とシートクッション10との境を基点にして、当該シートバック11とシートクッション10の境からシートバック11の上端までの長さL（図1に示す）の30%以上70%以下の範囲内、好ましくは、40%以上60%以下の範囲内に設けられている。なお、シートバック11とシートクッション10の境とは、シートクッション10の座面（着座者が実際に座る面）とシートバック11との境界である。シートバック11とシートクッション10の境からシートバック11の上端22aまでの長さ（前面から見たときのシートバック11のシートクッション10上の露出部分の上下の長さ）Lは、例えば600mm～700mm程度である。こうして、シートバック11は、少なくとも着座者Pの肩関節を覆わないように設計されている。

10

【0019】

上部22は、着座者Pの背中上部の肩甲骨J付近を支えている。なお、上部22は、肩甲骨Jの全部を支えている必要はなく、一部を支えていてもよい。図7に示すように上部22の前面22bは、幅方向に平坦であるか、中央が凹むように僅かに湾曲している。

20

【0020】

また、シートバック11の前面は、中央部21から上部22に向けて、例えば着座者Pの背中の形状に沿って背面側に凸に湾曲している。

【0021】

シートバック11の材質には、例えばウレタン等が用いられている。

【0022】

図1に示したシートクッション10は、シートバック11に接続されている。シートクッション10の材質には、例えばウレタン等が用いられている。

【0023】

ヘッドレスト12は、シートバック11の上端部に接続されている。ヘッドレスト12の材質には、例えばウレタン等が用いられている。

30

【0024】

本実施の形態によれば、シートバック11の中央部21が、下部20及び上部22よりも幅広に形成され、左右の両端が前方側に突出するように湾曲した前面21bを有しているので、着座者Pの体格の大小にかかわらず、良好なフィット感が得られる。また、シートバック11は、中央部21から上部22にかけて、背面側から見て着座者Pの肩部Sが露出するような切欠き形状11aを有しているので、図8に示すように着座者Pの肩部Sの前後の動きが規制されず、シフトレバーの操作や、左右後方確認等の動作を異物感なくスムーズに行うことができる。また、切欠き形状11aにより視認性が向上し、例えば前席のシートの場合、前席乗員の後方視界、側方視界、後方乗員の前方視界が広がる。

【0025】

シートバック11は、中央部21から上部22に向かって次第に幅が狭くなり内側に凹んだ湾曲形状を有するので、着座者Pの肩部Sを十分に露出させることができ、肩部Sの動きの規制を適切に排除できる。

40

【0026】

中央部21における幅広部分Aは、シートバック11とシートクッション10との境を基点にして、当該シートバック11とシートクッション10の境からシートバック11の上端までの長さの30%以上70%以下の範囲内に設けられているので、着座者Pの肩部Sを十分に露出させることができ、肩部Sの動きの規制を適切に排除できる。

【0027】

以上、添付図面を参照しながら本発明の好適な実施の形態について説明したが、本発明

50

はかかる例に限定されない。当業者であれば、特許請求の範囲に記載された思想の範疇内において、各種の変更例または修正例に想到し得ることは明らかであり、それらについても当然に本発明の技術的範囲に属するものと了解される。

【００２８】

例えば上記実施の形態において、図９に示すように上部２２が、着座者Ｐの首部Ｎ付近まで上方に延長されていてもよい。また、シートクッション１０やヘッドレスト１２の形状や、シートクッション１０やヘッドレスト１２のシートバック１１との接続構造は、本実施の形態のものに限られない。

【産業上の利用可能性】

【００２９】

本発明は、着座者の良好なフィット感を維持しつつも、着座者の肩部を動かしやすい車両シートを提供する際に有用である。

【符号の説明】

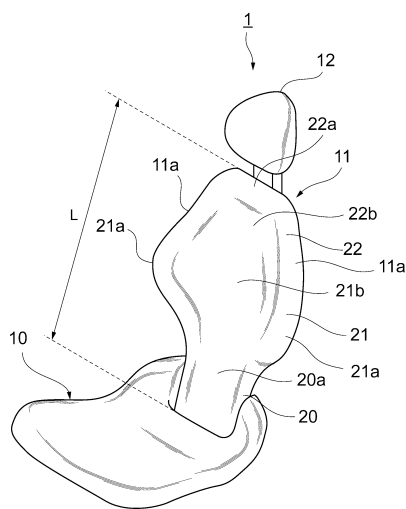
【００３０】

- １ 車両用シート
- １１ シートバック
- １１ａ 切欠き形状
- ２０ 下部
- ２１ 中央部
- ２２ 上部
- Ｐ 着座者
- Ｓ 肩部

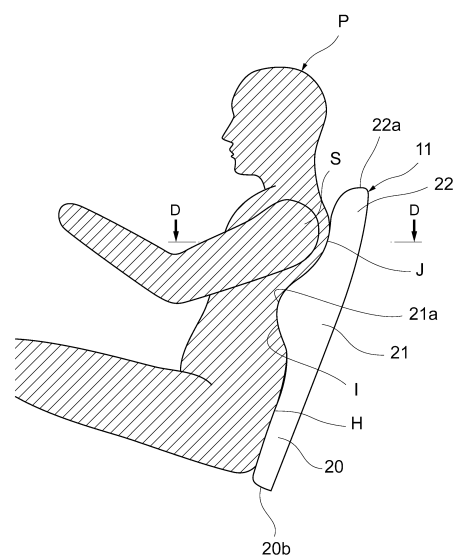
10

20

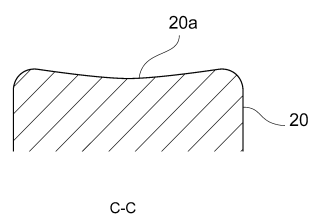
【図１】



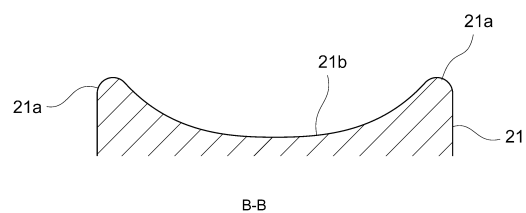
【図２】



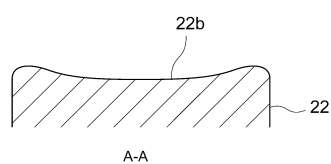
【図 4】



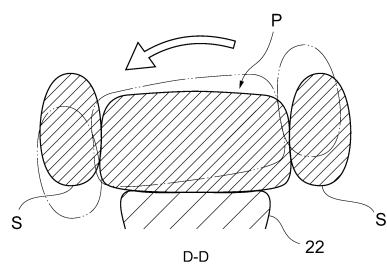
【図 5】



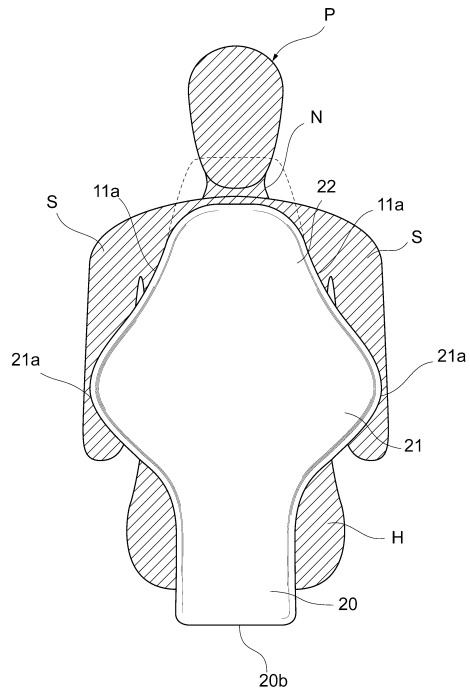
【图 7】



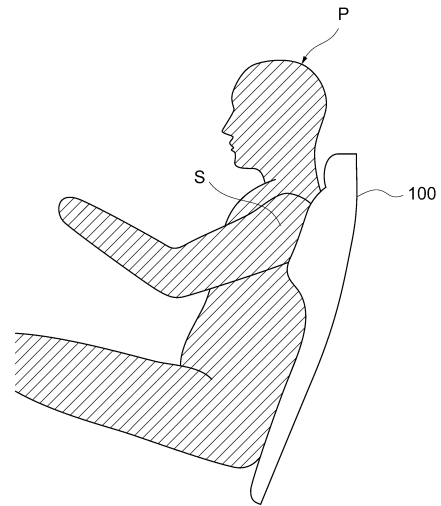
【图 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

- (72)発明者 小池 敦
東京都昭島市松原町3丁目3番7号 株式会社タチエス内
- (72)発明者 豊美 春平
東京都昭島市松原町3丁目3番7号 株式会社タチエス内
- (72)発明者 石井 厚
東京都昭島市松原町3丁目3番7号 株式会社タチエス内
- (72)発明者 熊谷 光太郎
東京都昭島市松原町3丁目3番7号 株式会社タチエス内

審査官 望月 寛

- (56)参考文献 特開2015-098213 (JP, A)
実開昭51-106422 (JP, U)
特開2013-158537 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
- | | |
|------|------|
| B60N | 2/64 |
| A47C | 7/40 |